

福島第一原子力発電所 土壤中のPu分析結果

1.測定結果：

(データ集約:12/22)
(単位：Bq/kg・乾土)

採取場所 ()は1,2号機スタックからの距離	採取日	Pu-238	Pu-239+240
グラウンド(西北西約500m) ¹	2015年9月14日	$(5.4 \pm 0.82) \times 10^{-2}$	$(2.9 \pm 0.59) \times 10^{-2}$
野鳥の森(西約500m) ¹		N.D. [1.2×10^{-2}]	$(1.7 \pm 0.15) \times 10^{-1}$
産廃処分場近傍(南南西約500m) ¹	採取中止 ³	-	-
国内の土壤(昭和53年～平成20年) ²		N.D. $\sim 1.5 \times 10^{-1}$	N.D. ~ 4.5

[]内は検出限界値を示す

- 1：過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。
- 2：出典「環境放射線データベース」(文部科学省)
- 3：フェーシングにより採取出来ず(次回より「産廃処分場近傍」の欄は削除)。

2.分析機関：株式会社 化研

3.評価：

2015年9月14日に検出されたPu-238とPu-239+240の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと同様なレベルである。しかし、これまでの結果から、今回の事故に由来する可能性が考えられる。

以上

福島第一原子力発電所 土壌中のSr分析結果 < 1/3 >

1. 測定結果：

(データ集約: 12/22)
(単位: Bq/kg・乾土)

採取場所 ()は1,2号機スタックからの距離	採取日	Sr-89	Sr-90
グラウンド(西北西約500m) ¹	2015年7月13日	N.D. [1.5×10^1]	$(4.9 \pm 0.12) \times 10^1$
野鳥の森(西約500m) ¹		N.D. [1.4×10^1]	$(1.4 \pm 0.020) \times 10^2$
産廃処分場近傍(南南西約500m) ¹	採取中止 ³	-	-
過去の測定値の範囲(平成11年度～平成20年度) ²		-	ND～4.3

[]内は検出限界値を示す

- 1: 過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。
- 2: 出典「平成21年度 原子力発電所周辺環境放射能測定結果報告書」
(福島県原子力発電所 安全確保技術連絡会)
- 3: フェーシングにより採取出来ず。

2. 分析機関：株式会社 化研

3. 評価：

検出されたSr-90の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと比べ高い値となっていることから、今回の事故に由来することが考えられる。

以 上

福島第一原子力発電所 土壤中のSr分析結果 < 2/3 >

1. 測定結果：

(データ集約: 12/22)
(単位: Bq/kg・乾土)

採取場所 ()は1,2号機スタックからの距離	採取日	Sr-89	Sr-90
グラウンド(西北西約500m) ¹	2015年8月10日	N.D. [1.2×10^1]	$(6.1 \pm 0.13) \times 10^1$
野鳥の森(西約500m) ¹		N.D. [1.2×10^1]	$(7.4 \pm 0.14) \times 10^1$
産廃処分場近傍(南南西約500m) ¹	採取中止 ³	-	-
過去の測定値の範囲(平成11年度～平成20年度) ²		-	ND～4.3

[]内は検出限界値を示す

- 1: 過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。
- 2: 出典「平成21年度 原子力発電所周辺環境放射能測定結果報告書」
(福島県原子力発電所 安全確保技術連絡会)
- 3: フェーシングにより採取出来ず。

2. 分析機関：株式会社 化研

3. 評価：

検出されたSr-90の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと比べ高い値となっていることから、今回の事故に由来することが考えられる。

以 上

福島第一原子力発電所 土壌中のSr分析結果<3/3>

1.測定結果：

(データ集約:12/22)
(単位：Bq/kg・乾土)

採取場所 ()は1,2号機スタックからの距離	採取日	Sr-89	Sr-90
グラウンド(西北西約500m) ¹	2015年9月14日	N.D. [9.4×10^0]	$(7.8 \pm 0.16) \times 10^1$
野鳥の森(西約500m) ¹		N.D. [8.5×10^0]	$(9.0 \pm 0.15) \times 10^1$
産廃処分場近傍(南南西約500m) ¹	採取中止 ³	-	-
過去の測定値の範囲(平成11年度～平成20年度) ²		-	ND～4.3

[]内は検出限界値を示す

- 1：過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。
- 2：出典「平成21年度 原子力発電所周辺環境放射能測定結果報告書」
(福島県原子力発電所 安全確保技術連絡会)
- 3：フェーシングにより採取出来ず(次回より「産廃処分場近傍」の欄は削除)。

2.分析機関：株式会社 化研

3.評価：

検出されたSr-90の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと比べ高い値となっていることから、今回の事故に由来することが考えられる。

以上